



- 1 院内研究報告会
- 2 アクティビティフェスタ
行事計画
- 3 春のお花見
病棟装飾
- 4~5 新入職員特集
- 6 部署物語
- 7 マイワールド
- 8 人事異動

第27回 院内研究報告会 2019年2月27日(水)

開設当初から開催している院内研究報告会も、今回で27回目を迎えることとなりました。毎年、日々の業務改善状況を確認しつつ、研究成果の発表を通して、学術的資質の向上と院内外の評価を受ける機会としております。今回は院内から12演題、院外から1演題の計13演題の口頭発表となりました。特に優秀な研究については、外部学会等で発表すると共に、論文を専門誌に発表するようにしております。近く全演題を論文の形で補正し、「東京都立東大和療育センター研究報告集第27巻」として発刊する予定となっております。



<最優秀賞>
受賞者なし

<優秀賞>

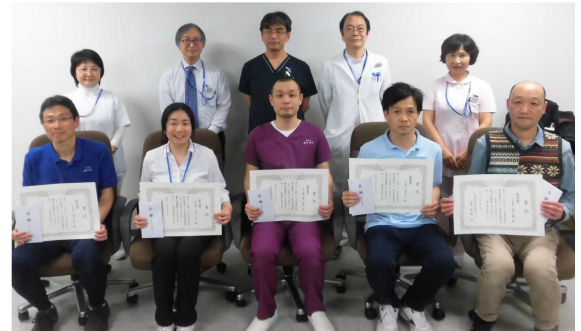
重症心身障害をもつ子の父親の思い 第3病棟 豊川尚平 他
当センターにおける生活支援科職員研修の実践報告 生活支援科 高田貴二 他

<努力賞>

東大和療育センターにおける意志決定支援のこれから 在宅支援室 三村さやか 他
重症心身障害者に対する英国式リフレクソロジーの効果～第3報 生活支援科 高井直人 他
デジタルアートを利用した療育の開発 よつぎ療育園 佐野直樹 他

<その他の演題>

施設移転に伴う職員の不安分析 第1病棟 小田桐良忠 他
重症心身障害児者の自然排便への取り組み 第2病棟 森田英之 他
医療機器管理上での課題について 医療機器担当 吉田等
職員の流行性ウイルス感染症の抗体価測定とワクチン接種効果 感染制御チーム 堀川弘子 他
身体外傷リスクに対する職員の安全意識の検証 第3病棟 牛久祥穂 他
当センターの骨折の実態調査 リハビリテーション科 小林愛 他
転落防止に向けての取り組み 専任リスクマネージャー 林美和子
閉眼していることが多い重症心身障害児(者)の睡眠と覚醒の状態を明らかにする。
第4病棟 富山浩司 他



テーマは「鍋料理」 アクティビティフェスタ2018

リハビリテーション科 柏山むつ子

第1病棟と第3病棟前の廊下や2階エレベーターホールに飾っていた“鍋”の壁面、皆さん見ていただけましたか？

あの壁面は、1月に開催したリハビリテーション科主催のアクティビティフェスタで制作した作品です。利用者さんにも気軽に制作活動を楽しんでほしい、という目的で2008年度から実施しています。

例年はプレイルームで行なっていましたが、今年は仮設棟になり、リハ科スタッフが各病棟にお邪魔して行いました。これまでプラ版キーホルダー、ポップリ、小枝でのリース、サシェ、フェルト玉のキーホルダーなどの作品作りを提供してきました。

今年は、少し趣向を変えてみんなで一つの作品を作ろうということで、壁面制作をしました。テーマは“鍋料理”。第1病棟は“きりたんぼ鍋”、第2病棟は“もつ鍋”、第3病棟は“鍋焼きうどん”、第4病棟は“すき焼き鍋”。それぞれとても味がある良い作品に仕上がっていました。利用者さんはもちろん、職員や親御さんにもとても好評でした。暖冬と言われていても、やっぱり寒い日には鍋が食べたくなりますよね。皆さんは、どの鍋が食べたくなりましたか？



2019年度行事計画

病棟・通所行事

●大行事

東大和フェスタ 6月29日(土)

クリスマス会 12月

成人式 1月

●季節の小行事

お花見、七夕、夕涼み、お月見、節分、ひな祭り等

リハビリテーション科行事

6月 生け花 ダンスパーティー

8月 ボッチャ大会

10~11月 制作展

11月 音楽会

1月 アクティビティフェスタ

3月 春の発表会

満開の笑顔が咲く春のお花見

第3病棟 指導員 阿部禎夫

3月31日(日)、日差しが心地良い好天の下、第3病棟の皆様は元気にお散歩に出られました。皆さんお待ちかね、この春初のお花見です。センター敷地内の桜はまだ5~6分咲き程度なもの、青空を背景にとっても綺麗な様子です。利用者の方々はそれぞれ、好みの角度から桜をバックに記念撮影。春の到来を身近に感じてか、自然と顔がほころんで笑顔が多くなっています。いい写真がたくさん取れたのですが、その中でも選りすぐりの2枚をご覧ください。新しい年度も楽しく過ごせそう、そんな予感がする素敵な一日でした。



春の病棟装飾 ギャラリー



↑ 第1病棟【桜の花びらリース】
紙皿にカラフルな和紙を
貼り付けました。

← 第2病棟【早春の訪れ】
ステンシルで華やかに
作りました。



← 第3病棟【春を創ろう】
土筆やたんぽぽをクラブ
活動の時間に作りました。



← 第4病棟【雛飾り】
手を添えて顔を描きました。
色々な表情が楽しめました。

2018年4月に入職し、あっという間に一年が経ちました。私が重症心身障害児(者)への看護の道を選んだ理由は、看護を行う対象者一人ひとりと真摯に向き合い、苦痛を和らげ喜びを共感し、対象者や自分自身の成長を感じたいと考えたからです。また、東大和療育センターに見学に来た際、利用者やスタッフがとても笑顔で関わり合っており、とても明るく楽しい気持ちになりました。私もここで働き、利用者の方と充実した日々を過ごしたいと思い、入職を決意しました。

最初は看護師という役割をしっかりと果たせるか、とても不安でした。しかし、多くの利用者やそのご家族の方、先輩スタッフにとっても優しく接していただき、看護師としての職務やコミュニケーションの取り方など、大切なことをたくさん学ぶことが出来ました。

この一年間経験してきたことを踏まえ、今後の目標は大きく分けて二つあります。一つ目は、看護師としてさらなるスキルアップを目指すことです。積極的に学ぶ姿勢を持ち、多くのことを経験し、学びを深めていきたいと考えています。二つ目は、皆様との関わりを大切にして充実した日々を送ることです。一年目はとても楽しく充実した日々を送ることが出来ました。今後もより充実した日々を過ごすために、笑顔と感謝の気持ちを大切にしていこうと考えています。

まだまだ未熟者ではありますが、今後ともよろしく
お願い致します。

二年目への思い



私は、看護学生の時に初めて重症心身障害児(者)の方の看護を知りました。一般病院とは違い、長期で入所をして生活している方たちに寄り添うことができると知り、東大和療育センターに入職しました。

初めの頃は、利用者さんとのコミュニケーションの取り方が難しく感じました。利用者さんの出しているサインを読み取ることができず、懸命に伝えようとしているのに何もできませんでした。先輩方に聞きながら、徐々にわかるようになり、利用者さんの望んでいることができるようになりました。入職してから1年が経って意思の疎通ができるようになり、利用者さんとの関わりがとても楽しいです。利用者さんとのコミュニケーションが日々の楽しみになっていて、笑顔に癒されています。今後も、利用者さん一人ひとりの個別性に合わせ、希望に沿った看護ができるように関わりを大切にしていきたいです。

利用者さんの中には、自分の思いを伝えることが難しい方もいます。そのため、利用者さんの変化に早く気づけるように日々の観察を行っていく必要があることを学びました。変化を発見した際に、先輩に報告するだけでなく、今後は自分でアセスメントができるように、疾患や病態の知識を深めていきたいです。看護師として成長できるように、日々努力していきたいです。

以前は一般の急性期病院で勤務していました。入退院が多く診療科が混在している病棟で、日々目の前の業務をこなすのに精一杯でした。今後の看護師としてのキャリアを悩んでいた際に、一人ひとりとじっくり向き合う看護を試みたいと考えようになりました。そんな中でセンターを知り、重症心身障害児(者)の看護に興味を持ち就職しました。

最初は、今までと異なるケアや関わりに戸惑い悩むこともありましたが、一年が経ち利用者の方々が穏やかに楽しく生活できるよう支えることにやりがいを感じています。また、重症心身障害児(者)の方々は、言葉ではない様々なメッセージを発信しており、その気持ちを汲み取ることや、それぞれ異なる食事の介助方法があり、個別性が高く奥が深い分野だと感じます。今後も利用者のニーズや変化に気付き対応し、個別性を考慮したケアや関わりが出来るよう日々勤めていきたいです。



入職から一年。今の思いを率直に語っていただきました。迷ったり悩んだりした時は、「そもそもなぜ自分は志したのか？」その原点に立ち返ってみることで、気付くこともあるはずです。動機は、大切な道標です。

私が入職したきっかけは、以前他施設で働いていた時に東大和療育センターを知り、興味を持ち見学に来たことが最初でした。そこでは、療育活動を行う時、どうしたら利用者さんが楽しめるかということを考えながら、みんなで一緒に活動を楽しんでいる様子を見ることができました。そこで、私もその中の一人として一緒に考え、利用者さんが楽しめるような援助をしていきたいと思い入職しました。

入職してから1年が経ち、振り返ればあっという間に過ぎてしまったという思いです。利用者さん一人ひとりと関わり、日々過ごしてきて毎日色々なことを考えさせられました。自分が行った一つひとつの援助が正しかったのか、どうすれば利用者さんにとって良かったのかということを考え、利用者さんと向き合ってきました。時にはうまくいかなかった時もありますが、活動などで一緒に楽しめている時の利用者さんの表情などを見ていると、とても生き生きとしていて、良かったと思える瞬間がたくさんあります。また、去年は引越しがあり、利用者さんにとっては不安な思いもあったかと思います。もう少しで半年が経ち、気持ちも落ち着いてくる頃かと思いますが、また元の場所に戻る時期はあっという間に来てしまうと思うので、利用者さんが落ち着いて過ごすことができるよう今度も利用者さん一人ひとりと向き合い、関わり、それぞれの特性を活かしてその人らしく過ごせるように少しでも援助していければと思っています。

ぶしょものがたる 部署物語

第2巻 通所係

意外と知らないお隣の部署…自由に語っていくシリーズ企画

通所係 主査 高井直人

通所の朝は、朝8時30分のミーティングから始まります。早々にその日の欠席者や活動予定を全員で確認し、35分にはほとんどのバスが出発します。東大和市や武蔵村山市を回るバスで1時間、遠方のバスだと1時間半くらいの道中です。バス添乗をしない職員は、入浴や昼食、ポジショニングの準備をして、利用者さんをお迎えする準備をします。10時前後になると、5台のバスが続々と戻ってきます。病棟からも短期入所中の通所利用者の方が職員と共に来ます。静寂を保っていたデイルームが、一気に活気づきます。

さあ、一日の始まりです。ベッドで過ごす方、床のマットで過ごす方、車椅子のまま過ごす方、皆さんいろいろです。現在39名の方が登録されていますが、週1日から週5日の方まで利用日数が異なるため、曜日によってメンバーは少しずつ違います。日々の出席者は、年間平均で21名です。皆さんが落ち着いたところで、リーダーの職員が朝の挨拶をして、予定を伝えます。

と、その傍らでは、既に入浴が始まっています。ほとんどの方が入浴を希望されているため、毎日8名前後の方の入浴を午前中に行っています。以前は午後にも行っていたのですが、日中活動の時間をしっかりと確保するために、午前中にごんばっています。昼食が済み食休みしたら、午後の活動時間です。制作やムーブメント、マッサージ、音楽などバラエティー豊かになるように計画しています。もちろん気候の良い時期は、散歩にも出かけます。月に1回は、1時間半程度の外出も計画します。

おっと、気がつけばもう午後2時半、そろそろ帰りの準備を始めます。忘れ物がないか、履物や掛け物も登所時と同じように身に着けていらっしゃるか、きちんと確認します。3時15分、再びリーダーの職員がマイクを握り、1日を振り返ります。縁あって同じ場所に通うことになったメンバーですが、春に特別支援学校高等部を卒業して新たに加わる方がいる一方で、去年は3名の方が退所されました。その他、短期入所を利用されたり、体調を崩したりすれば暫くお休みされるため、同じメンバーという日は実はあまりないのです。だからこそ、「1日を振り返り、また会いましょう」ということを確認する帰りの会は大切だと思うのです。

あっ、という間に5台のバスが出発して行きました。残った職員で片づけをして、明日に備えます。感染症を未然に防ぐため、ベッドや床、使用した物品の清掃には特に気を付けています。在宅支援を掲げる以上、感染症による休所は何としても避けねばなりません。

最後のバスが戻ってきました。時刻は、午後5時過ぎです。冬は真っ暗ですが、車窓からの夕焼けは実に美しいものです。時に大雨の日があったり、渋滞にはまったりといったこともありますが、在宅支援の重要な一輪を担っていると考えると、どんな難局も乗り越えられそうな気がします。整えられ、誰もいない静かなデイルームを見渡す時、「やっぱりここには、利用者さんと職員がいないとなあ」としみじみ感じます。



「清水山の森」…23区で唯一のカタクリ群生地！ 練馬区に在住し26年！ カタクリの花の見頃は、ソメイヨシノとほぼ同時期の3月下旬から4月上旬。毎年、見たい！と思いつながりながら実現できなかったのが、今年こそは！と、行ってきました。

やや紫がかった、紅色のかわいいカタクリの花を楽しんできました。花言葉は、初恋。カタクリといえば片栗粉を連相しますが、昔はその名のとおり、カタクリのりん茎からとれる良質のでんぷんが使われていたそうです。種子から開花まで7～8年かかるといわれ、開花した翌年は花をつけないとのこと。昨年は、変異した白いカタクリの花が咲いたそうです。来年は、その白い花を見ることもできるかもしれないので、もっと早い時期に訪ねてみようと思います。(白石範子)



思うこと

感じること

伝えたいこと

Vol.11

時々、ふとした時に思い出す方がいます。それは、“村瀬嘉代子先生”という方のことです。心理臨床家であり、臨床心理学の研究者です。現在は、日本心理研修センター（国家資格である公認心理士の試験及び登録の運営のための組織）の理事長をしています。先生は80歳をこえています、まだまだお元気に第一線で活躍されていることは、非常にうれしい限りです。

私は若かりし頃、5年程先生の下で主に子どもの心理臨床を指導していただき、たいへんお世話になりました。何と云っても、清く誠実な方で、求める専門性や人間性は非常に高く、目標としても恥ずかしながら及ばない私でした。

今では全く違う領域で働いている私ですが、今でも先生から学んだことは、私のベースになっていると言えます。そして、私にとって今でも尊敬する人であり、憧れの方であることに変わりありません。業績については、文字数に限りがありますので割愛せざるを得ませんが、著書はたくさん出版されていますので、興味がありましたら、ぜひお読みになっていただけたらと思います。(加藤一久)





東大和療育センターホームページ

東大和療育センター

検索

そよ風 第96号

編集 院内報そよ風編集委員会
発行日 平成31年4月15日
発行 東京都立東大和療育センター
東京都東大和市桜が丘3-44-10
Tel 042-567-0222

編集後記

今年の花見は、近所の土手をぶら〜り散歩。いつもは車で一瞬で通り過ぎてしまう道ですが、この時期は足早に通り過ぎるのが惜しく、歩いて桜を観賞しました。小腹が空いたので、喫茶店で早めの昼食をとり、美味しいコーヒーで一服し……花屋で素敵な花を買って帰りました。以上、私のささやかな休日でした。(Y・H)